

平成22年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成21年11月6日

上場取引所 JQ

上場会社名 ゲオディノス
 コード番号 4650 URL <http://www.geodinos.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 松生

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 吉住 実

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日 —

TEL 011-241-3951

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	2,613	△4.9	△62	—	△128	—	△105	—
21年3月期第2四半期	2,747	—	△111	—	△180	—	△230	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	△24.73	—
21年3月期第2四半期	△53.91	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	8,681	2,223	25.6	519.18
21年3月期	8,936	2,312	25.9	539.98

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 2,223百万円 21年3月期 2,312百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,400	31.5	220	—	70	—	70	—	16.34

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ定性的情報・財務諸表等4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	4,303,500株	21年3月期	4,303,500株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	20,048株	21年3月期	20,048株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第2四半期	4,283,452株	21年3月期第2四半期	4,283,452株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知お願います。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、経済対策の効果もあって、個人消費の一部に持ち直しの動きがみられましたが、失業率は依然高水準にあり、生活必需品でない娯楽支出は引き続き抑制傾向がありました。

このような状況下において、当社では、新社名決定に伴う種々のキャンペーン（元気クーポン券配布、ゲオ会員の割引、ハッピーボウルキャンペーン等）を実施したこと、並びに期初計画になかったゲーム単独店を旭川市内にオープン（平成21年7月18日）したことなどがありました。8、9月においてインドアレジャーに不利な天候（晴天）が続いたことや、新型インフルエンザ拡大等のマイナス要因により、売上回復ペースが鈍化したため、売上高は26億13百万円（前年同四半期比4.9%減）となりました。

営業損失、経常損失につきましては、8、9月における売上回復ペースの鈍化に加え、期初計画になかったゲーム単独店の出店にかかるオープン費用、事業譲受けに先立ち全国ゲオショップ内で使用中のプライズゲーム景品の一括購入など、一時的な費用増などがありました。期初に計画した施設管理コスト等の経費削減策が期待通りの効果を上げ前年同四半期より赤字幅が減少し、営業損失62百万円（前年同四半期は営業損失1億11百万円）、経常損失1億28百万円（前年同四半期は経常損失1億80百万円）となりました。四半期純損失につきましては、下期以降に収益が回復できる見通しが立つことに伴う法人税等の調整により1億5百万円（前年同四半期は四半期純損失2億30百万円）となりました。

当第2四半期累計期間における営業実績を事業の部門別に示すと次のとおりであります。

部門	当第2四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	前年同四半期比 (%)
アミューズメント施設部門 (千円)	2,110,032	△8.6
(ゲーム部門) (千円)	(1,427,386)	(△7.7)
(ボウリング部門) (千円)	(509,291)	(△11.5)
(カラオケ部門) (千円)	(106,188)	(△6.2)
(その他部門) (千円)	(67,166)	(△7.9)
映画興行部門 (千円)	458,898	17.0
その他 (千円)	44,659	△5.1
合計 (千円)	2,613,590	△4.9

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 「アミューズメント施設部門」の「その他部門」は、ビリヤード場・バッティングセンター・マンガ喫茶・ダーツ等の売上であります。

3. 「その他」は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

(アミューズメント施設部門)

アミューズメント施設部門につきましては、ゲオパーク旭川買物公園4条店のオープン（平成21年7月18日）がありました。8月以降の新型インフルエンザ拡大の影響によりボウリング団体予約にキャンセルがあったこと、ゲームメーカーの新機種発売の減少があったこと、スガイコトニ他2店舗の閉鎖などの影響により、売上高は21億10百万円（前年同四半期比8.6%減）となりました。

(映画興行部門)

映画興行部門につきましては、「ハリー・ポッターと謎のプリンス」、「エヴァンゲリオン新劇場版：破」等のヒットなどにより、売上高は4億58百万円（同17.0%増）となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期会計期間末の総資産は86億81百万円となり、前事業年度末に比べ2億55百万円減少しました。これは主に、現金及び預金等流動資産の減少（前期末比1億40百万円減）及び差入保証金等固定資産の減少（同1億14百万円減）があったことによるものであります。

負債については、64億57百万円となり、前事業年度末に比べ1億65百万円減少しました。これは主に、店舗閉鎖損失引当金等流動負債の減少（同35百万円減）及び長期借入金等固定負債の減少（同1億30百万円減）があったことによるものであります。

純資産については、22億23百万円となり、前事業年度末に比べ89百万円減少しました。これは主に、評価・換算差額等の増加（同16百万円増）がありましたが、株主資本の減少（同1億5百万円減）があったことによるものであります。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ1億62百万円減少し、3億72百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、58百万円となりました。これは主に、税引前四半期純損失の計上1億30百万円及び店舗閉鎖損失引当金54百万円の減少並びに利息の支払額64百万円ありましたが、非資金費用である減価償却費が3億18百万円あったことなどによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、1億38百万円となりました。これは主に、差入保証金の回収による収入が95百万円ありましたが、有形固定資産の取得による支出が2億20百万円あったことなどによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は82百万円となりました。これは主に、長期借入による収入が7億50百万円ありましたが、長期借入金の返済による支出が7億36百万円及び社債の償還による支出が42百万円並びに長期未払金の返済による支出が40百万円あったことなどによるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の業績等を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成21年5月8日付決算短信に公表した平成22年3月期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、平成21年11月5日に公表した「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

（1）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

（2）四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

（3）継続企業の前提に関する重要事象等

財務制限条項

当社は、平成17年3月25日にディノス苫小牧出店資金を調達するため金融機関5社からなるシンジケート団との間で、シンジケートローン契約を締結し、平成17年4月8日に8億50百万円を借入れており、平成21年9月末現在5億10百万円の借入残高があります。

この契約には、当社の年度決算期における貸借対照表における純資産の部の金額や、各年度決算における損益計算書の営業利益、経常利益を基準とした財務制限条項が付加されております。

平成21年3月期末において、これらの借入金に対して財務制限条項に抵触している事実が発生しておりますが、シンジケートローンに関する財務制限条項について、シンジケート団においては、当該条項を適用しない旨の合意を得られており、書面で承諾を得ております。

なお、親会社の株式会社ゲオにおいては、当社が策定した事業計画の達成に向けて、営業・販促面において可能な限り全面的に支援する方針であり、資金面についても相互に緊密な連携を図り、資金調達活動を支援する方針である旨、取締役会において決議されております。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成21年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	378,593	525,551
売掛金	82,235	82,279
有価証券	1,267	11,264
商品及び製品	12,555	11,451
原材料及び貯蔵品	33,911	23,337
その他	77,044	72,702
貸倒引当金	△110	△288
流動資産合計	585,498	726,299
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,001,385	3,062,439
アミューズメント機器（純額）	670,691	738,986
土地	2,739,860	2,739,860
その他（純額）	336,189	247,978
有形固定資産合計	6,748,127	6,789,264
無形固定資産		
投資その他の資産	12,030	12,684
差入保証金	939,729	1,014,545
その他	396,081	393,728
投資その他の資産合計	1,335,811	1,408,274
固定資産合計	8,095,968	8,210,223
資産合計	8,681,466	8,936,522

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成21年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	89,444	102,679
1年内償還予定の社債	65,000	75,000
1年内返済予定の長期借入金	1,540,072	1,409,284
1年内返済予定の長期未払金	82,421	77,793
未払法人税等	8,568	9,949
賞与引当金	7,701	7,620
ポイント引当金	5,500	7,000
店舗閉鎖損失引当金	592	54,623
その他	327,455	418,591
流動負債合計	2,126,755	2,162,541
固定負債		
社債	30,000	62,500
長期借入金	3,512,712	3,630,136
長期未払金	106,523	129,723
退職給付引当金	150,384	145,412
その他	531,213	493,210
固定負債合計	4,330,833	4,460,982
負債合計	6,457,589	6,623,523
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	152,687	258,627
自己株式	△10,844	△10,844
株主資本合計	2,219,614	2,325,554
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,262	△12,555
評価・換算差額等合計	4,262	△12,555
純資産合計	2,223,877	2,312,999
負債純資産合計	8,681,466	8,936,522

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	2,747,714	2,613,590
売上原価	2,494,245	2,338,656
売上総利益	253,468	274,933
販売費及び一般管理費		
給料	105,167	104,075
賞与引当金繰入額	4,277	2,814
退職給付費用	2,914	2,588
租税公課	56,708	58,078
その他	196,006	169,569
販売費及び一般管理費合計	365,075	337,125
営業損失(△)	△111,607	△62,192
営業外収益		
受取利息	3,503	2,344
受取配当金	1,027	896
アミューズメント機器売却益	10,110	850
協賛金収入	—	2,328
その他	10,141	1,929
営業外収益合計	24,783	8,349
営業外費用		
支払利息	72,340	61,729
アミューズメント機器処分損	17,234	10,869
その他	3,851	1,941
営業外費用合計	93,426	74,539
経常損失(△)	△180,250	△128,382
特別利益		
固定資産売却益	206	17
ポイント引当金戻入益	1,500	1,500
投資有価証券売却益	287	—
特別利益合計	1,994	1,517
特別損失		
投資有価証券売却損	—	98
固定資産除却損	229	3,947
店舗閉鎖損失引当金繰入額	3,500	—
特別損失合計	3,729	4,046
税引前四半期純損失(△)	△181,986	△130,911
法人税、住民税及び事業税	5,122	4,669
法人税等調整額	43,799	△29,640
法人税等合計	48,922	△24,971
四半期純損失(△)	△230,908	△105,939

(第2四半期会計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
売上高	1,408,570	1,378,333
売上原価	1,263,534	1,227,090
売上総利益	145,035	151,242
販売費及び一般管理費		
給料	53,424	52,599
賞与引当金繰入額	2,511	2,008
ポイント引当金繰入額	500	—
退職給付費用	1,485	1,353
租税公課	28,302	29,199
その他	101,560	88,164
販売費及び一般管理費合計	187,783	173,324
営業損失(△)	△42,747	△22,082
営業外収益		
受取利息	1,735	1,184
受取配当金	222	280
アミューズメント機器売却益	4,003	850
受取保険金	3,858	—
協賛金収入	—	1,142
その他	3,111	1,523
営業外収益合計	12,930	4,982
営業外費用		
支払利息	36,438	31,909
アミューズメント機器処分損	16,175	10,404
その他	1,071	999
営業外費用合計	53,685	43,313
経常損失(△)	△83,502	△60,412
特別利益		
固定資産売却益	63	17
投資有価証券売却益	287	—
投資有価証券評価損戻入益	18,595	—
特別利益合計	18,946	17
特別損失		
固定資産除却損	149	3,806
店舗閉鎖損失引当金繰入額	3,500	—
特別損失合計	3,649	3,806
税引前四半期純損失(△)	△68,204	△64,202
法人税、住民税及び事業税	2,437	2,334
法人税等調整額	74,921	△28,651
法人税等合計	77,358	△26,317
四半期純損失(△)	△145,563	△37,885

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△181,986	△130,911
減価償却費	372,241	318,814
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	253	△177
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△11,196	81
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	4,155	4,972
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△1,500	△1,500
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	3,500	△54,030
受取利息及び受取配当金	△4,531	△3,241
支払利息	72,340	61,729
有形固定資産除却損	13,212	13,094
有形固定資産売却損益 (△は益)	△6,065	854
投資有価証券売却損益 (△は益)	△287	98
売上債権の増減額 (△は増加)	28,589	44
たな卸資産の増減額 (△は増加)	6,155	△11,679
その他の資産の増減額 (△は増加)	△26,816	△15,449
仕入債務の増減額 (△は減少)	△6,026	△13,235
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△20,720	△6,501
その他の負債の増減額 (△は減少)	△66,277	△40,659
小計	175,042	122,303
利息及び配当金の受取額	2,140	1,007
利息の支払額	△71,617	△64,126
法人税等の支払額	△2,605	△1,011
営業活動によるキャッシュ・フロー	102,959	58,172
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△6,000
貸付けによる支出	△3,100	—
長期貸付金の回収による収入	15,018	15,184
投資有価証券の取得による支出	△3,439	△2,000
投資有価証券の売却による収入	20,263	281
有形固定資産の取得による支出	△261,594	△220,587
有形固定資産の売却による収入	37,762	1,733
有形固定資産の除却による支出	△128	△1,727
差入保証金の差入による支出	△25,223	△20,671
差入保証金の回収による収入	19,205	95,487
投資活動によるキャッシュ・フロー	△201,235	△138,301
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	700,000	750,000
長期借入金の返済による支出	△638,883	△736,636
社債の償還による支出	△42,500	△42,500
長期未払金の返済による支出	△27,651	△40,736
リース債務の返済による支出	—	△12,853
配当金の支払額	△12,872	△100
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,907	△82,826
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△120,183	△162,954
現金及び現金同等物の期首残高	1,020,062	535,816
現金及び現金同等物の四半期末残高	899,879	372,861

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。